

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区南砂7-10-9 リビオシティ南砂町ステーションサイト1階
施設名	ひまわり保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然（生き物、栽培、植物、四季）

〈テーマの設定理由〉

四季の変化や生き物の世話、食べ物の栽培を通して、見る・触る・嗅ぐ・味わうなど五感を使う体験をしてほしいという思いから、自然をテーマにしました。

2 活動スケジュール

- ・5～3月：散歩先や園庭の植物や生き物を発見し、触ったり、観察して身近に感じる。
- ・5～8月頃：野菜の苗植えでまず土に触れる。毎日の水やりを当番でして、生長を感じる。暑さの為、生長しすぎて身割れしたり、枯れたのも経験する。
- ・7月：幼虫から育てていたかぶと虫が成虫になり、命を感じ、生長過程を知る。
- ・10月：さつま芋掘りに行き、土を掘って、つるを持って力いっぱい芋を抜く経験をする。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・ケース ・紙コップ ・ピンチ ・マット ・すのこ ・ネット ・軍手 ・土 ・苗 ・リボン
- ・画用紙 ・テプラカートリッジ ・記録用タブレット ・ハンガースタンド

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

散歩先や園庭で見つけた花や植物、虫を持ち帰り、調べたり、育てることにしました。四季によって花や植物、虫が違うことに気付き、育つにはどうしたらいいかを考え、水やりやお世話に取り組んでいました。育った時には嬉しそうに見つめる子どもたちの姿が印象的でした。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・初めは何だろう？と触れない物が、友だちや保育者が触っているのを見て、興味を持ち始めた。そこから、「これは？」と色々な物に対しても興味を持ち、絵本や図鑑で同じ物を見つけると「これ見たことあるね」「●●にあったね」と子ども同士、保育者と共感できる時間になった。
- ・虫の観察・お世話では、何を食べるのか？どんな環境にすれば生長するのかを子ども同士で図鑑を見たり、保育者に聞きながら取り組んでいた。幼虫から成虫になると目を輝かせて見る子どもたちの姿があった。
- ・野菜の栽培では、土台作りから始め、土いじりで塊があると根が生長しないことを知り、しっかりと土を掘っていた。毎日当番制で水やりをしたが、当番を忘れる友だちに「今日、お当番さんだよ」と自然と声を掛け合う姿があった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもたちの会話の中から興味あることを知り、普段から親しんでいる「自然」にしました。子どもたちの考える力、友だちとの関わり、もっとやりたいの気持ちが沢山出ました。取り組む中で自然の中から四季により出てくる物が異なることや天候によって生長が違うことを学びました。探究心や命を感じる1年となりました。